

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第6期第1回 豊島区環境審議会
事務局（担当課）		環境清掃部 環境政策課
開催日時		令和6年3月18日（月）16時00分～18時00分
開催場所		豊島区役所本庁舎8階レクチャールーム
議 題		1 開 会 2 議 題 （1）区民及び事業者を対象とする意識調査の結果について （2）環境基本計画見直しにおける骨子案について 3 その他 （1）高校生による環境基本計画見直しに向けた施策提案 4 閉 会
公開の 可否	会 議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 8名
	会 議 録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
出席者	委 員	蟹江憲史、関礼子、岡山朋子、高橋正弘、生田茂、伊藤あすか、大嶋聡、榊原清、塩田明央、島沢明史、深澤浩一、岡村弘孝、小堀大蔵、高橋かずみ、水埜多喜子、村上政美、岡田英男（環境清掃部長）、近藤正仁（都市整備部長）（敬称略）
	そ の 他	道路整備課長、SDGs未来都市推進課長、防災危機管理課長、財産運用課長、施設整備課長、環境保全課長、ごみ減量推進課長、豊島清掃事務所長、生活衛生課長、都市計画課長、土木管理課長、公園緑地課長、庶務課長
	事 務 局	環境政策課長、環境政策担当係長（環境計画・調整・事業）、同主事2名

審 議 経 過

【開会】

委員の委嘱及び紹介に続き、会長及び副会長の選出について

【議事(1)】

○環境政策課長

資料第1-3号説明

○委員

今回のアンケートは、2000人に対して回収率25.75%ということで、回答者は環境に非常に関心の高い方で、実際には区民の関心が低いのではという気がするのですが、そのあたりどのように考えれば良いでしょうか。

○環境政策課長

このようなアンケート調査として、回答率は比較的高いです。環境に関する意識等を分析していくうえでは参考になる数値だと捉えていただければと思います。このアンケートは、ボリュームが多かったのも、忙しかったり、さまざまな事情で提出できなかった方もいらっしゃるのではと思われます。

○環境政策課長

資料第1-4号説明

【議事(2)】

○環境政策課長

資料第1-5号説明

○会長

ご説明ありがとうございました。

論点が3つありましたが、一つは、ご提示いただいたものに対して、新たな視点を追加したほうが良いと思われる視点等がないか、文言・構成はこれでいいかどうかという点です。もう一つは、同じく案に対して、施策の方向性に関して、同様なご議論をお願いしたい。3つ目は、リーディングプロジェクトが今まではあったのですが、そこは中に包括されているということで、削除してもいいのではないかというご提案がありました。案1が、リーディングプロジェクトは削除して重点施策のみの設定とするというもので、案2は、重点施策プラス、リーディングプロジェクトという今の形を維持して内容を見直すの

みにするというお話でした。前回説明していただいたアンケート調査結果も含めて、非常に多岐にわたる項目を議論しなければいけないということで、駆け足になりますけれども、ぜひ皆さん、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、ここからご議論いただければと思います。オンラインの方も、挙手をお願いします。

○委員

最初に、この基本目標の文言について意見を述べさせてください。一番上の気候行動ですが、今はもう温暖化や気候変動は待ったなしで、本当に危機的な状態にあることは、皆さんご存じだと思います。従いまして、できれば「気候行動」という聞き慣れない言葉を基本目標の言葉にするよりは、「気候危機への対応」くらいの文言にしていきたいなと思います。それが1つ目です。

最後の共通目標なのですが、最初に区役所の率先行動とあります。こちらは共通目標になってもよいと思うのですが、例えば、「区役所の」ではなくて「行政の」としていただいて、この区役所の建物だけではなくて、区立の保育園とか、小学校とか、中学校とか、区民ひろばとか、いろいろな施設があろうかと思いますが、そちらも全て含めた上で、公共の施設、そこで働いている方々、集う人々の率先行動を促していただけたらと思います。

○会長

ありがとうございます。

幾つか、もしご意見があれば、まとめて取ってから、事務局からお話を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

○委員

私も「気候行動」という言葉、環境に配慮した「行動」と「活動」という言葉がいろいろと分けられて書いてあるところに少し違和感を覚えます。何かいい案はないのかなと感じました。

もう一点、環境に配慮したというのは前の計画でも使われているのですが、「配慮した」というよりは、「環境にやさしい」とか、どちらかというと一般的な言葉にさせていただいたほうが、スムーズに頭に入ってくるかなと思いました。以上です。

○会長

ありがとうございます。

もう一つぐらい、いかがでしょうか。よろしいですか。

1点目、「気候行動」は、多分Climate actionと英語で言うものを日本語に訳して言っているのだと思うのですが、気候危機、Climate crisisという言葉も、結構、最近

はよく聞きますので、2つ意見がありましたので、その辺りも含めて事務局から回答をお願いします。

○環境政策課長

まず、「気候行動」につきましては、いただいた意見も参考にしながら考えていきますが、なぜ「気候行動」という言葉にしたのかというところをご説明させていただきますと、脱炭素化と聞くと、二酸化炭素を減らしていくとか、そういうことが思い浮かぶと思います。豊島区では、環境基本計画より新しい戦略として2050としまゼロカーボン戦略があります。この中に気候変動適応計画関するところが入っています。環境基本計画の中には、今回、気候変動適応といったところも付け加えていかなければいけないというところもあり、この「気候行動」という単語には例えば、排出量の削減、二酸化炭素とか、気候による影響への適応なども全部含めた言葉として、今、「気候行動」と言われているというところもあるため、この言葉にしました。

もう一つ、「やさしい」という単語は、我々がチラシなどを作るときに、環境にやさしい行動を取りましょうとか、子供たちに教育するときも、少しでも地球環境を守るために、環境にやさしい、地球にやさしい行動をしようねという言い方をしています。このゼロカーボン戦略という中でも「環境にやさしいエネルギー」という言葉を使っております。今回、環境基本計画は、言葉としての認知度も低いですし、難しい内容になってしまったため、そこを「配慮」という言葉ではなくて、「やさしい」とか、区民の皆さんが見てイメージしやすい、分かりやすい言葉にするというのは、非常に大事な視点かなと思いますので、いただいたご意見も含めながら考えていきます

「区役所の」という部分は、このゼロカーボン戦略の中では、「区の率先行動」という言い方をしております。そのため、ご提案として「行政の」という単語がございましたが、ここで「区役所」としてしまうと、そこだけを指しているようにイメージされてしまうので、それも全部含めた、豊島区全体、豊島区役所全体、出先施設も含めたという意味で、言葉は選ばせていただきます。

【議事(1)(2)】

○会長

ありがとうございます。

○委員

アンケート調査の結果、非常に興味深く見させていただきました。500人ぐらいの回答があつて、結構属性をきちんと聞いているので、もう少しクロス分析をすると具体的な施策の方向が出てくるのかなという気がしております。例えば、私は環境教育なので、ど

うしても環境教育に引きつけがちなのですけれども、この資料編の6ページのところ、別紙の6ページの辺りだと、広報紙を随分選んでいます。60%の方は広報紙を情報源としています。でも、例えば、これを年代でクロスすると、何歳代ぐらいの人が広報紙を求めている、若い人とかはどうなのかとか、そういうものが多分出てくると思っていて、このデータを使うことによってターゲットに合わせた環境教育の政策が立てやすいのかなと思っています。このデータは、属性でやっているの、地区別でやるとか、いろいろなことができると思いますので、これはぜひ活用していただけるといいのかなと思います。

一方で、ゼロカーボン戦略や環境基本計画の認知度が低いです。この辺りがブレークスルーするための一つのテーマになるのかなと思っていますので、今回の文言の中に書くということではないですけれども、そこが意識できればいいかなと思っています。

○会長

私もその認知度のところはすごく気になったところでして、一方、今日は高校生のみなさんから実際に豊島区ゼロカーボン計画を提言していただいて、いろいろとフレッシュな発想があって、多分、認知度を上げるための発想は我々よりも若い人たちのほうが、SNSの活用とか、非常にうまいこと考えられると思いますので、ぜひ今後はそういう声も聞いていただくほうがいいのではないかなと、私も思います。
ほかにいかがでしょうか。

○委員

基本目標2の自然共生ですが、今、生物多様性というところで、ネイチャーポジティブの考え方がある中で、保全するだけでいいのかなと、例えば、再生まで含めた考え方であってもいいのかなとは思いました。

資源循環に関しては、例えば、フランスなどは、生ごみは既に法律で全部資源循環となっているのに、10年間かけてやっと法律ができたということなのですから、サーキュラーエコノミーのための法案というものができて、本当にフランスでは生ごみはごみではなくて資源だという考え方がある中で、長期的な、生ごみももう資源になるんだよという考え方はこれからするのかということを知りたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

1点目、大変重要なところですね。確かに、おっしゃるように、ネイチャーポジティブと言っている時代なので、ご指摘のとおりかと思います。

他はいかがでしょう。

○委員

施策（案）のところで、まず、最初の基本目標１、気候の施策（案）のところに、先ほど他の委員おっしゃっていて、私も同感なのですけれども、「環境配慮行動」の支援と普及啓発、さらに「環境配慮活動」の支援と普及啓発と並んでいるのですけれども、差が分からないです。これはどちらかにまとめたほうがいいのではないかとということが一つ。

もう一つ、この「気候行動」の中に、要は、温暖化対策のための緩和策も適応策も両方が入っているのだというご説明だったと理解していますけれども、大切なことは、適応策もですけれども、緩和策だと思うのです。そういう中で、このアンケートの中で少し面白いなと思ったことが、（６）エコ設備の利用について、断熱など、複層ガラスなどをされている人が27.8%で、私は感覚的には多いなと思いましたけれども、東京都としても一番力を入れているところで、東京都からの相当の補助金も出るのですよね。したがって、この中の省エネに当たるのかなと思うのですが、断熱などの省エネの設備を促すような施策があってもいいのかなと思いました。

資源循環ですが、先ほど食品ロスのお話もありました、食品ロスについて、豊島区においては、恐らく事業所から出る飲食店からの食品廃棄物並びに食品ロスは非常に多いですね。それがコロナの間で大分減ったのですけれども、もう一つ、せっかくリデュースができていますので、今度は、出てしまった飲食店の食品廃棄物については、「できるだけ」ではなく「絶対」と言いたいところなのですけれども、リサイクルするようにと。リサイクル率が非常に低いです。食品リサイクル法にのっとって、ここについては、きちんとリサイクルされていくように、堆肥化、エネルギー化、何でもいいのですけれども、そういったところを促す施策が一つあってもいいかと思います。

○会長

ありがとうございます。

それでは、一旦、事務局にお戻ししたいと思いますけれども、今、私も伺いながら見ていたら、細かい点ですけれども、最後の方向の案、１－４で、「脱炭素な」まちをつくるについて、これは「脱炭素の」まちをつくるというほうがいいのかと思いました。細かい点ですけれども、まとめてお願いします。

○環境政策課長

まず、全体のところで、一つ、ご意見がありました、例えば、自然共生のネイチャーポジティブのお話。第５期第４回、昨年９月のときにも、同様のご意見をいただきました。おっしゃるとおり、ネイチャーポジティブは、国や都でも話が出ておりますので、そういったことはこの自然共生の文章の中で表現していく必要があるのかなと、現時点では考えております。どういった形で記載していくか、実際に基本計画の文章をつくっていく中で考えていきたいと思っています。

少し順番が前後してしまうかもしれませんが、環境配慮「行動」と「活動」、先ほどお

2人の委員からお話がありましたが、ここはあえて分けています。「行動」は、今までで言うと、I－2「家庭における」で区民の皆様が、環境にやさしい、配慮した「行動」を取るという意味で、国や都でも表現は「行動」という言い方をしています。I－3に当たる部分が「活動」ですが、事業所に関しては「事業活動」という言い方をしておりますので、あえて「行動」と「活動」と分けています。こちらで伝えたい意味は一緒ですので、主語が区民の皆さんか事業者かの違いかだけですので、より分かりやすい形になるよう考えていきたいと思っております。

また、先ほど、委員より東京都が補助金とかも出しているとおっしゃっていた省エネに関する設備等ですが、豊島区におきましても、エコ住宅、エコ事業者向けという形で、の一般住宅向けと中小規模事業者のみなさん向けに省エネの設備を導入するための助成金を実施しています令和6年度につきましては、予算を倍にして、より進めていこうとしています。そういったことも、現行の環境基本計画の中にも書いておりますが、これからもきちんと盛り込んでいきたいと考えております。

資源循環のところは、例えば、サーキュラーエコノミーとか、そこら辺のところはいかがですか。ごみ減量推進課長、お願いします。

○ごみ減量推進課長

2点、私からお話しさせていただきたいと思います。

まず、生ごみの件が出ました。今、豊島区でも生ごみ処理機の助成などを行っておりまして、そうした活動などを推進するような施策にもわたっているところでございます。そうした意識の醸成といった視点は、今後も、ごみの減量という視点からは、非常に大事な視点だと感じたところでございます。

食品ロスのこと、事業系のところでのご意見がございました。今、豊島区で行っているものは、中心的になっているものは家庭ごみの食品ロスの削減でございますけれども、食品ロスの計画の中でも、事業者を巻き込んでというところもございますので、そうした視点も頭に入れながら、この計画については、研究をしていきたいと思っているところでございます。今、区民への意識醸成などは食品ロスで行っているのですが、民間事業者とタイアップしてというところまでは、フードドライブや講座以外はできていない状況ですので、またいろいろと皆様のご意見を伺いながら考えていきたいと思っております。

○環境政策課長

私から2つ、補足させてください。先ほどお答えしていなかった部分です。

委員からいただいたクロス分析につきましても、実施しているところもありますので、今後生かしていきたいと思っております。

ご質問については、以上です。

○会長

ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょうか。事業者関連団体の皆様方、もし何かあれば、この機にご発言いただければと思いますけれどもいかがでしょうか。

○委員

基本目標の文言については、今ご議論されている形でよろしいかと思うのですが、気候行動の中では、I－5、方向（案）、気候変動に適應するまちをつくるということで、今、環境省の基本にも、レジリエント、いわゆる強靱化は必ず入ってきているので、関連性が強いということで、ぜひ盛り込んでいただきたい。

その中で、施策（案）として、災害等への備えで雨水対策等を含むということは、現状、我々造園業界でも「グリーンインフラ」という言葉でくくっておりますので、少し横文字が多くなるのですが、注釈も加えて、ぜひ反映いただきたいと思います。

基本目標4ですが、先ほど学生さんからも出ておりましたけれども、健康・快適ということでいくと、ウォーカブルなまちづくりは外せないと思っております。横文字が多くなって、日本語にすると解釈が難しいのですが、ウェルビーイングということは、今、当たり前の発想になっておりますので、どこかにお盛り込みいただけたらいいのかなと思いました。

○会長

ありがとうございます。

レジリエントに関しては、特に気候行動には今回は適應も入っていますので、適應の中でも非常に重要な概念になりますので、ぜひご検討いただければと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○副会長

様々なご意見が今までに出たのですが、1つ重要なことは、区民が主役なのに、区民が分からない言葉でまとめてしまつては、専門家あるいは準専門家だけの計画になってしまうということだと思います。ただ、これもあれもと入れてほしい項目がたくさんあるということは皆さんから出たとおりなのですが、施策（案）のところまで下ろしてみると、今までに足りないのではないかとされたこともフォローをされているような気がするのです。例えば、生物多様性のところに危険な外来種が入っていて、快適環境のほうに、獣害、多分カラスとか、そういうゴミを荒らすものだと思うのですが、そのような感じで、恐らくそこだけでは一対一では対応できない。施策の方向と施策

の(案)で複数の線が引かれるようなつくり方をしているのかなと見えるのですね。その補助線が見えないと、足りないところがいっぱいに見えるのではないかなと。例えば、先ほど食品ロスについて非常に重要なご指摘がありましたけれども、それも、最後に書いてある⑤で新たなリサイクルの拡充とありますけれども、同じように、新たに、食品廃棄物はリサイクルでいいですかね、そういうことで、新たなリサイクルの拡充というところにかかってきますよね。整理し過ぎてしまうと余計に分からなくなるというところと足りなく見えるというところがあるのかなということで、1点だけ指摘させてください。

○会長

ありがとうございます。

非常に重要なご指摘だと思います。今の関先生のご発言に私も刺激されて、その足りないところをうまく補完するというか、市民の皆さんに分かりやすくというところを補完する意味でも、SDGsの目標ではなくて、ターゲット、例えば、食品ロスだったら2030年までに半減するというものがあるので、基本目標の上位目標みたいな感じだと思いますけれども、それをどこかに書いていただくということは、SDGs未来都市でもありますし、いいのではないかなという気がします。特に、グローバルで幾つかやっ払いこうという具体的な数値があって、それを落とし込んだものがこの環境基本計画でもあると思いますので、そのことにきちんと触れていただくことで、今、SDGsは認知度が非常に高くなっていますので、そういう意味でも落とし込みやすくなるのではないかな。一方で、SDGsをやっている人たちからしてみると、多分そこまでなかなか落ちないと思うのですよね。この食品ロスとあの食品ロスは一緒なのかということが意外と分かっていないと思うので、そういう関連もしていただくといいのかなと思いました。

ほかはいかがでしょうか。

○委員

今日の資料では、具体的なリーディングプロジェクトがどういうものかということが説明されておらず、前回、前々回の審議会のときには具体的な資料があったのですがけれども、資料がない中で、リーディングプロジェクトは、案1が削減、案2が継続して設定すると、案が2つございます。それについての私の意見なのですが、リーディングプロジェクトは続けていったほうがいいのではないかな、ということです。その理由は、2つあるのですが、一つは、具体的に区がどのような施策をして区民あるいは企業がどのように参加しているかという具体的な行動がとてもよく分かるからです。もう一つ、理由の2つ目としましては、まだ道半ばといいますか、うまくいっているなと思えるプロジェクトもあれば、まだ途中なのではないかなと思えるものもあるからです。このまま削減ということではなくて、見直しはあると思うのですが、具体的に、こちらの施策の中で、区民や区や企業がどのように連携しているかという状況がよくわかるものなので、

ぜひ続けていっていただけたらと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

エネルギーという観点で、例えば、ゼロカーボン、ライフスタイルの転換、省エネというところで、ともすると、我慢しなければいけないという方向にばかり行きがちになるかなと思っているのですが、エネルギーという観点でいくと、例えば、電気を上手に使うとか、蓄電池を使って、再生可能エネルギー、太陽光発電で発電した電気をしっかり使い切るとか、そういったことをやることによって、過度に我慢をしなくても脱炭素を実現できる可能性はあるのかなと思っています。そういう意味では、省エネというところばかりではなくて、電気を上手に使うという観点やそれを後押しする施策といった観点も入れていただけるとよりよいのではないかと思いますので、意見として述べさせていただきました。

○会長

ありがとうございます。

それでは、事務局から、今、幾つもお意見が出ましたけれども、リーディングプロジェクトはなぜ削除する方向になったのかというご説明も含めてお願いします。

○環境政策課長

少し広い視点で申し上げますと、先ほどご意見もありました、例えば、「グリーンインフラ」という言葉やウォークアブルなまちも含めて、先ほどお見せしたゼロカーボン戦略という令和4年7月に作成したものに、言葉として出てくるものもあります。今回の環境基本計画は、これから見直しで、例えば現在入っていない、その後に出てきた単語や新しい概念については、今後、実際に文章にしていく中で、施策の言葉として出していったほうがいいのか、それとも、施策のタイトルとしては少し大きなものにして、その中の文章で出していったほうがいいのかといったことも含めて、新しい単語等々につきましては考えていきたいと思います。今日、様々な委員から、こういった要素を入れたほうがいいのかといういろいろな視点をいただきましたので、それを踏まえて考えさせていただきたいと思います。

リーディングプロジェクトのところは、今日の資料でいいですと、内容については書いていないのですが、この第1－5号別紙、一番右下のところに、現在、何がリーディングプロジェクトとして選ばれているかについてのみ、記載していますそれぞれの目標ごとに、その中でもこれがリーディングなプロジェクトだということで強調をさせていただ

いているのですが、今回事務局で、これをなくしてもいいのではないかといいところは、いわゆる消極的な削除ではなくて、重点施策があるのに、その中でまたリーディングプロジェクトがあるということで、分かりづらいのではないかといい視点から、全てが重点施策である、どれもリーディングプロジェクトであるといった見せ方でもいいのでは考え、あえて分けずに1つにまとめて、その中で、審議会委員の皆様方と、豊島区としては、それぞれの目標のところで、これが重点の大事な施策だということを考えていければよいのではことで、発展的な削除として考えた次第です。先ほど委員がおっしゃった意見はごもっともだと思います。今日、この場では意見が言えていない委員のみなさんもたくさんいらっしゃいますので、近日中に皆様に、今日の論点のこの3つについて、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただいて、それを踏まえて、次回、案の形でお示しできればと考えております。

○会長

ありがとうございます。

それでは、お時間になりましたので、本日の議論は以上としたいと思います。

これをもちまして、第6期第1回「豊島区環境審議会」を閉会させていただきます。

提出 された 資料等	【資料第 1-1 号】豊島区環境審議会規則 【資料第 1-2 号】第 6 期豊島区環境審議会委員名簿 【資料第 1-3 号】区民及び事業者を対象とする意識調査の結果について 【資料第 1-3 号(別紙)】豊島区の環境に関するアンケート調査結果について 【資料第 1-4 号】議論いただきたい事項 【資料第 1-5 号】環境基本計画見直しにおける骨子案について 【資料第 1-5 号(別紙)】目標と施策の方向性について(案) 【資料第 1-6 号】「豊島区環境基本計画 2025-2030(仮称)」策定スケジュール 【資料第 1-7 号①】豊島区ゼロカーボン計画 【資料第 1-7 号②】TamEco
------------------	---